



Lorem Ipsum Dolor

環境を
意のままにする

clubjepense201901

環境に負けてはいいないか？

環境に対する誤解

- ❖ 資本主義社会に生きる人はよほどのことがない限り、9割方ルサンチマンである。
- ❖ ひがみ、妬み、拗ねて、誰かや何かのせいにして自分の弱さを正当化する習性がある
- ❖ それをやらない者たちがあらゆる自由を手に行っている
- ❖ その9割が考えていること「環境はどうにもならない」という無力感

環境に対する誤解

- ❖ 多くの者が気づかないフリをしたり、更にルサンチマンになりさがるものだが、歴史上の偉人や成功者の大多数が、悪条件下からのし上がり、成功したり偉業を達成したりしている

環境に対する誤解

- ❖ 織田信長、エジソン、ダヴィンチ、坂本龍馬、モーツァルト、ディズニー、ビル・ゲイツ、スティーブ・ジョブズ、トム・クルーズetc・・・彼らは全員、発達障害と言われていたり診断されていたりする
- ❖ J.K.ローリング、オプラ・ウィンフリー、エミネム、マドンナ、ディカプリオ、彼らは皆、悲惨な幼少期や環境を生きた過去がある

環境に対する誤解

- ❖ ここで、才能があったからだ、幸運だったからだ、と言ってしまふのは簡単、
- ❖ 逆を言えば、才能や運があっても全く利用できてないケースも多い、これはどう説明する？

環境に対する誤解

- ❖ 才能や運、努力の賜物だけが理由では当然ない
- ❖ そもそも「置かれた環境、境遇」に対する視点や姿勢が違うのだとしたら？
- ❖ **環境や境遇を「太刀打ちできないモンスター」だと思っていないだろうか？**

環境や境遇は
太刀打ちできない
モンスターではない
飼いや慣らせる小型ペットである

環境は自分より上位の構造ではない

- ❖ 大多数が「環境」と耳にすると、自分や主体を取り囲む「周囲」をイメージする
- ❖ 逆を言えば大多数がソレなのでここをデコードしていけば、圧倒的有利に持ち込める

環境の何をどうデコードするのか

- ❖ 大多数がそうだと思っているものが「コード」
- ❖ この場合「主体を取り巻くもの」を環境と呼んでいるのでこれがコード
- ❖ 表向きこの考えに沿っている風にして、内心では別の概念を「環境」としていけ
- ❖ 別の概念は極論、自分に都合なものでもいい

「環境」の外には何があるのか

- ❖ コードで言えば、人は環境の大きさや規模を変えはするが、**環境自体の外を想定できない**
- ❖ しかし、我々は「環境」を語るレイメージしている、つまり、**視点はすでに環境という概念の外にある**
- ❖ ということは、我々は環境の外にいるのではないだろうか？（あくまでひとつのデコード例）

視点を外に、身体を主体に

環境を意のままにしていく方法

その1：視点を構造の外に、

身体を構造の中にあるとする

つまり、この時点で「自分」が二箇所にあるとする

(これがいわばスキゾ)

メインは視点の方

その2：あくまでメインとする自分は
「視点」の方

つまり、構造の外にある方の自分をメインとする
環境に限らないが「メインの視点」が
どこにあるかで行動が決定される、
普段から気をつけること

身体と視点が同位置の幻想

多くの人々が身体と視点が同一箇所にある

このため、行動が制御できない

身体と視点は同じ場所にない、

そう思い込まされているだけ

思考の視点と器官としての「目」を分ける

メインの「視点」の指示に従え

その3： 視点がメイン、身体はサブである
視点が構造の外にちゃんと出されていれば

「場」における最適、

もしくはそれに近い行動は導き出される

視点の選択に身体を従わせること

そのために構造を読もうという姿勢を持つこと

視点の快樂

構造の外に出された「視点」の選ぶ快樂は、

身体にとって苦痛な時がある

理由、身体の方は臨場感のある肉体的に

近いものを一次快樂と設定しているから

視点の選ぶ快樂が身体にとって苦痛だったとしても

それは一時的な成長痛みみたいなものである

思考の視点の基準

- ❖ 「構造が何を目指しているのか」を見る
- ❖ 構造の目指すものと自身の欲望は一致しないことなんか日常茶飯事だ、自身の欲望を優先すべきタイミングは後述
- ❖ 構造の目指すものと、場の支配者が目指すものはほぼ一致する、構造が読めない時は支配者を見る

具体事例：家庭

- ❖ 両親と祖父母と子供2人の6人家族とする、自分は子供の片方、親や祖父母と折り合い悪い
- ❖ その家庭における「場の支配者」は誰か見極める（構造の外に視点）
- ❖ 一見父親に見えてもその親である祖母だったりすることも多い、その場合場の支配者の祖母の意図を汲んで行動する（視点に身体を従わせる）

具体事例：会社

- ❖ 自分は数十人で構成される中規模な会社の総務部の平社員、正直仕事は激務でおもしろくない
- ❖ 本気でのし上がるなら部長クラスの意図を読む、まずは現状打破なら直属の上司の意図
- ❖ 場の支配者から見て「優秀な右腕」もしくはそれに近い位置にいけるような動きを選択していく

具体事例：恋愛

- ❖ 1：1の関係に見えるが、相手の主導権を握っている者が他にいるケースも多い
- ❖ 相手の主導権を握る者が好みそうな行動を選択（実際に会ったことがなかったとしても有効）

自身を優先させるタイミング

- ❖ 完璧に構造の意図に沿う行動を選択し続ければ、構造の方が自身の意見を求めてくる時がくる。もしくは構造の方が歩み寄ってくる瞬間がくる
- ❖ これが来たら、自身の欲望からの行動を出してOK、ただし初期段階では小出し、構造に自分を意図を知られるな、しばらくはあくまで小出しで従順な犬を演じる

環境が自分より下になる

- ❖ 構造が自分を完全に味方だと勘違いした瞬間、環境は自分より下になる（構造が自分と一致する時）
- ❖ 取り巻くものではなく、自分を取り巻いている方になった時、構造の目的を優先させるパフォーマンスをしながら、自分の意図を存分に行使しろ

環境は手に負えないモンスターではない

よく吠える小型犬である

環境を根気よくしつける

いずれ、連れて歩けるようになる